

こんな人材が欲しい



株式会社 モリヤ
代表取締役社長
守屋 守昭さん

い

また、営業職時代に心掛けていたのは「夜の7時まで会社に残る」ということでした。この時間はどこの加工工場もやっていないので、急な発注は必然的に私に届きます。「いつも助かるよ」と感謝され、値段交渉もなく受注につながります。ちょっとした工夫と頑張りの結果に結びつくわけです。

今、日本の若者は「頑張り」という覚悟が少ないのではないのでしょうか。海外の若い人にも会うと覚悟が違うと感じます。石の上にも3年。3年は我慢しようということを常に若い社員に言っています。「頑張り」と言うと禁欲的でまじめな感じがしますが、若い人にはビジョンを持って自分を豊かにするような仕事の仕方をしてほしいと思います。これによりお客様も豊かになり、会社も、ひいては地域の産業も豊かになると思っています。

自分を豊かにする仕事の仕方 会社もしつかりサポートしたい

社会に出て直面するさまざまな課題を解決する能力をつけるためにも、若い人たちには学生



モリヤは、気仙沼港で水揚げされる豊富な魚類を切り身・開き・短冊・角切りなど多様な加工に対応する水産加工のプロである。



「気仙沼 海の市 リアスシャークミュージアム」の1階に開店した「気仙沼 四季 伊八郎」。気仙沼では馴染みの薄かった「佃煮」の食文化を発信している



今年完成予定の念願の新社屋の完成予想図。若い力とともに、地域を盛り上げていきたいと守屋社長は話す

できることをやり続けること 頑張るといふ覚悟を持つてほしい

水産関係の仕事をしてきた父親の影響もあり気仙沼水産高校（現気仙沼向洋高校）に入学し、卒業後大学に進学。大学卒業後は、地元の水産加工会社で働きながら、製造現場や営業の経験を積んできました。

父親から言われたことで、今になって身に染みていることがあります。「始業時間の30分前には仕事ができるようにスタンバイする」ということです。時間前にスタンバイしていれば、上司から時間を取って細かく段取りを教えてもらえます。仕事の質も上がり、結果、上司に認められることにもなるわけです。

株式会社 モリヤ
切り身・開きなどの鮮魚加工、干物・漬け魚の二次加工から、独自製法による煮魚・焼魚、そして気仙沼の新しい名物となる佃煮を製造販売。2014年から、海鮮市場「海の市」に「気仙沼 四季 伊八郎」を出店している

所在地
気仙沼市長磯二本タン 22-1
TEL 0226-24-8500
FAX 0226-24-8805
http://www.kesenuma-moriya.jp/





商品開発・食品衛生・食品化学・栄養・環境・商業資格取得などに関する研究テーマを自分たちで設定し、少人数に分かれて研究する課題研究。問題解決能力の育成を目指している



職業選択について考え、地域社会についての理解を深めるために、インターンシップにも力を入れている



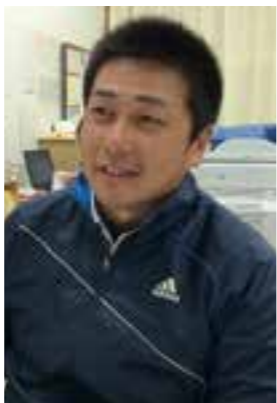
気仙沼向洋高校自慢の向洋サンマ缶詰の生産実習。生産者・販売者の責任や充実感を体験している。缶詰ラベルのデザインは3年生が作成

食品業界ならではの必要となる人材を育成

食べ物は生活の根本です。食品を作るところから売るところまでを学んでもらい、ひいては食品業界だけでなく、流通業界全般に対応できる広い視野と技術を育成したい。この思いを実現するために、産業経済科は、産業の上流から下流までを一貫して学ぶユニークなカリキュラムになっています。

「安全な食品を作るには?」「消費者が求めるニーズを知るには?」など、食品業界にはさまざまな課題があります。自分で課題を見つけ、解決していける人材が求められていますし、しっかりと提案・プレゼンテーションができる力も必要になると思います。

そこで、食に関する研究テーマを自分たちで設定し、実験や試作などを主体的に行っていく研修に力を入れています。生徒が実際の製造現場に足を運び、調査しながら解決策を導き、その結果をプレゼンテーションソフトなどを活用して発表します。



「部活動でもいい。一生懸命になれるものを持ってほしい」と語る進路指導部部長昆洋一教諭

充実した実践的な研修 食のプロとして使える人材育成を

このほかに力を入れているのが、実習授業など実践的な研修です。インターンシップは、気仙沼・本吉地区の食品関連会社を中心に実施。職業の選択や、地域社会について理解を深めてもらっています。

さらに、わが校ならではの取組として、缶詰やレトルト食品などの生産実習・販売実習があります。「向洋サンマ缶詰」は、

先輩たちから後輩へ脈々と引き継がれ、地元の方々からも愛されてきたものです。震災で製造工場が流されてしまいましたが、仮設の製造工場で実習を再開することができました。生徒たちも感謝の気持ちを込めて作っています。

他にも地域の企業とのつながりも深めたいと考え、会社見学も積極的に行っています。また、地域の企業で展開している「気仙沼水産資源活用研究会」に参加し、地元の水産加工業者との交流を深め、新商品の開発に携わるなど地域の産業の盛り上げに貢献したいと考えています。今後も実践的な経験を積みながら、地域から必要とされる人材育成を行っていきたくと考えています。

宮城県気仙沼向洋高校
創立113年目を迎える歴史と伝統に溢れる学校。情報海洋科、産業経済科、機械技術科の3学科体制で水産教育を展開し、気仙沼市の基幹産業である水産業の発展・振興に寄与している

所在地
気仙沼市九条 213-3
TEL 0226-22-1131
FAX 0226-22-1143
http://kkouyo-h.myswan.ne.jp/



こんな人材を育てている

宮城県気仙沼向洋高校
産業経済科長 教諭
船引 裕介さん